

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の結果（聴覚検査・電気生理学的検査・FaCE scale・柳原スコア・House-Brackmann scale など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている検査結果を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	顔面神経減荷術が QOL に与える影響の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 山田啓之
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2028年 3月31日
対象となる方	2007年1月から2026年3月に愛媛大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診された顔面神経麻痺の患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 病名、性別、年齢、既往歴、合併症、純音聴力検査、語音聴力検査、柳原スコア、House-Brackmann scale、電気生理学的検査 (NET、ENoG)、FaCE scale、治療状況を取得する。
研究の概要 (目的・方法)	顔面神経麻痺は患者さんの社会生活や精神面に多大な影響を及ぼします。特に重症の麻痺では Quality of Life (QOL) を著しく低下させます。そのような重症例に対しては顔面神経減荷術が行われますが、この手術後、QOL がどの程度改善するかは未だ不明です。本研究では顔面神経減荷術が QOL に与える影響を明らかにするとともに、その特徴を研究します。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報 (対応表) は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究とし

	て倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山田啓之 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5366